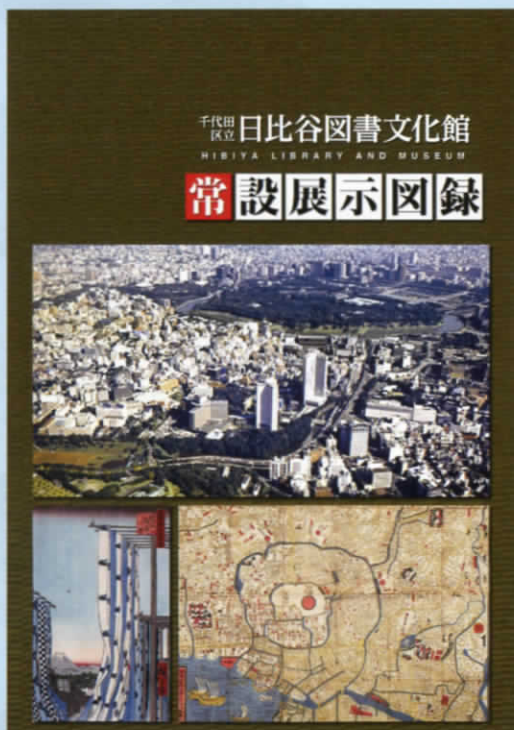


文化財 ニュース

3 Winter 2013

■ 平成24年度 文化財講座・古文書講座 開催報告 特集号

文化財事務室では、年間を通じて文化財に関する講座や古文書講座などを開催しています。本号では、平成24年度に開催したいくつかの講座の様子をご紹介します。→2ページへ



『日比谷図書文化館 常設展示図録』

A4版・全102ページ・一部700円

当館1階のLibrary Shop&Café Hibiya(常設展示室奥)、または当館4階の文化財事務室(月曜～金曜 10:00～17:15)にて販売しております。

当館以外では千代田区役所2階でも販売しています。

Index

- 2-4 特集 平成24年度
文化財講座・古文書講座 開催報告
- 5 埋文ニュース「千代田区役所旧庁舎から
発見された井戸跡」
- 6-7 区内文化財調査
「千代田区の標柱・説明板・案内板」
- 8 既刊報告書紹介 文化財調査報告書22
『ある官僚一家の近代
—佐野家旧蔵資料調査報告書—』

『日比谷図書文化館 常設展示図録』 販売中!!

日比谷図書文化館は、千代田区の歴史・文化を学習する博物館機能と図書館機能、そして学習機能が一体となった“知の拠点”を目指す総合文化施設として、平成23年11月4日に開館しました。その一周年にあたり、文化財事務室では『日比谷図書文化館 常設展示図録』を作成し、現在販売しています。

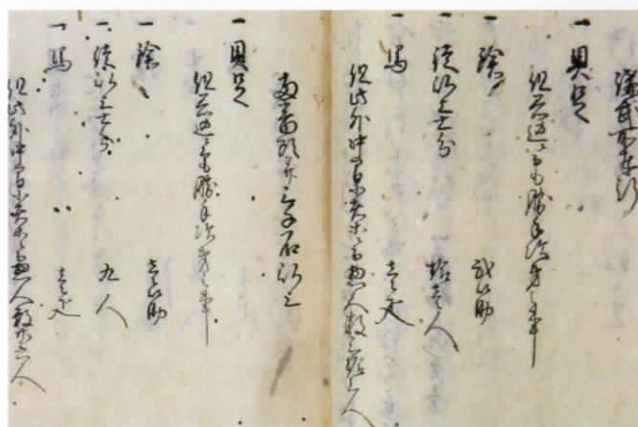
本図録には、常設展示資料の写真や解説を掲載するとともに、展示室のパネルやキャプションでは文字数の制限などから書ききれなかった内容などもあわせて掲載しました。本図録とともに常設展示をご覧になっても、あるいは来館記念に帰り際にお買い求めになっても、どちらでも楽しめる構成になっております。

平成24年度 文化財講座・古文書講座 開催報告

文化財事務室では、千代田区内の文化財や千代田区教育委員会が所有する資料を紹介するため、毎年「文化財めぐり」や資料を用いた講座を企画しています。平成24年度は、各分野の学芸員が講師を務める古文書講座や文化財講座、「文化財めぐり」を開催しました。

●古文書講座(6月～12月)

文化財事務室が主催する古文書講座は、入門・初級・中級の各コースを設定しています。入門では、江戸期の名所案内などの版本のかな文字を読むことを目標としながら、江戸時代の千代田区域の名所や地名の由来なども紹介します。初級では、『江戸買物独案内』や祭礼番付などをテキストに、版本や刷物のかな文字や漢字を読むことを目標としています。さらにそこに記載された江戸時代に、千代田区域に存在した商店や天下祭などの様子もあわせて解説しました。中級は、ある程度古文書が読めるという方を対象に、当教育委員会が所有する資料を用いて古文書を読むことを目標としています。今年度は「原胤昭旧蔵資料」からいくつかを取り上げました。



平成24年度 中級コースで用いた古文書

文化財事務室が開催する古文書講座は、毎年5月くらいからスタートします。コース別に申し込みできますので、受講者それぞれのレベルにあわせて受講することが可能です(平成24年度の場合は、各コース・全4回で受講料は800円でした。開催年度によって受講料や内容は、異なる場合があります)。

●文化財講座

文化財講座は、「文化財・収蔵資料は語る」というテーマで、計4回(参加料:各200円)の講座を開催しました(会場はいずれも日比谷図書文化館)。

*「収蔵資料は語る—文献資料の世界—」 (10月24日)

当教育委員会で所有する「紀伊国屋三谷家資料」・「原胤昭旧蔵資料」・「齋藤吉之氏旧蔵資料」など、資料群(コレクション)として管理している資料を用いて、文献資料(浮世絵・古文書・和本・刷物など)の特徴と収集から展示までの作業の流れを紹介しました。特に今回は普段ケース越しに見ている浮世絵や古文書を間近で見ることができました。

*「文化財は語る—区内文化財の世界—」 (11月7日)

当区で行なっている石造物の確認調査の成果をもとに、資料として石造物を扱う際の問題点やその残存状況からうかがえる千代田区の特徴などを解説しました。

*「収蔵資料は語る—民俗資料の世界—」 (11月21日)

当教育委員会で所有する民俗資料の概要および、資料の収集・保存・公開の意義や方法を紹介しました。そのうえで、炭火アイロンや氷冷蔵庫、初期型の電気洗濯機やテレビなどの実物資料に触れながら、民俗資料にみる生活の移り変わりや都市における生活資料の特徴を説明しました。参加した方々には、「実際に使っていたから懐かしい」「イメージしていたよりも重い」などの感想をいただきました。実物に触れることで得られる情報を体感していただけたかと思います。

*「千代田区の遺跡—考古資料の世界—」 (12月5日)

千代田区には旧石器時代から近代まで幅広い年代の遺跡があることを当館常設展示など見学しながら説明しました。その後、九段南一丁目遺跡の事例を通して、ひとつの遺跡調査でどのようなことがわかるのかを解説し、区内の出土遺物などを実際に手にとっていただきました。

●文化財めぐり

今年度の「文化財めぐり」は計4回(参加料:各200円)開催しました。いずれも2～3時間かけてめぐるコースを設定しています。

*「江戸・明治の日比谷周辺を歩く」(10月27日)

当館が所在する日比谷公園を中心に、南町奉行所跡(有楽町イトシア)・鹿鳴館跡(帝国ホテル、NBF日比谷ビル)・祝田橋の凱旋道路・桜田門交差点の外桜田門や法務省旧本館などをめぐり、近世から近代へ移りゆく時代に歴史的瞬間の舞台となった場所や日比谷周辺の史跡を紹介しました。

*「江戸城ウォーク」(11月3日)

桜田門→皇居外苑→大手門→下乗門→中之門→本丸→天守台→北桔橋門というルートで旧江戸城内の史跡をめぐりました。このルートは当時の大名の登城ルートを意識したものです。このコースは毎年、参加希望者が多く、江戸城へ寄せる関心の高さがうかがえます。

*「千代田の寺社を歩く」(11月10日)

この講座はJR神田駅に集合し、佐竹稲荷(内神田3-10)→一八稲荷(神田多町2-5)→松尾稲荷(神田多町2-11)→齋藤月岑の碑→和光稲荷(神田司町2-14)→豊潤稲荷(神田須田町1-8)→柳森神社(神田須田町2-25)→ふれあい橋→講武稲荷(外神田1-9)→亀住稲荷(外神田5-4)の神田地域の稲荷社などをめぐりました。千代田区では、日枝神社や神田神社などの大きな神社が有名ですが、実は区内には確認できているだ



「千代田区の遺跡—考古資料の世界—」講座の様子



「江戸・明治の日比谷周辺を歩く」当日の様子



「江戸城ウォーク」当日の様子



「千代田の寺社を歩く」当日の様子

けで約60社の稲荷などの神社や小祠しょうしが存在しています。このコースでは、そのような区内の民間信仰とともに、それを伝えてきた地域の人々の存在を紹介することを目的としました。

＊「中世の千代田を歩く」(11月24日)

この講座は、「中世の千代田区とはどのような景観であつたのだろうか」ということをコンセプトに、将門塚まさかどづか(大手町1-2) → 梵鐘出土地ぼんしょう(大手町2-5 現物は当館常設展示室に展示・区指定文化財) → 常盤橋(大手町2-7) → キリシタン墓出土地(丸の内1-8) → 大手門・大手濠周辺・太田姫稲荷神社(神田駿河台1-2) → 神田神社(外神田1-16)をめぐるしました。

現在の東京駅周辺や丸の内周辺は、徳川家康が入府する以前は日比谷入江と呼ばれる海が広がっていました。そうした当時の景観は、現在の東京駅や丸の内の高層ビル街からは想像しがたいことだと思います。この講座では、かつての「江戸前島」や「日比谷入江」を歩くことで千代田区の中世的景観を体感していただくことを目的としました。この時代の史跡をめぐるウォーキングは、文化財事務室としては初めての企画でした



「中世の千代田区を歩く」当日の様子

が、多くの方々にご応募いただき、中世の千代田に対する関心の高さを再確認することができました。

文化財事務室が主催する古文書講座や文化財講座・区内文化財めぐりは、いずれも千代田区の文化財を身近に感じ、より理解を深めていただくための企画です。詳細な日程や受講者募集については、決まり次第、区報やホームページなどで随時お知らせしています。千代田区在住の方以外でも応募が可能です。来年度も多くの方々のご参加をお待ちしております。(加藤紫識)

日比谷図書文化館で「昔の暮らし」体験!!

文化財事務室では、区内小学校の社会科の「昔の暮らし」を学ぶ授業にあわせて、区教育委員会で所有する民俗資料を使いながら、昔の暮らしや道具を体験してもらっています。平成24年度は、千代田区立九段小学校3年生のみなさんが見学に来てくれました(平成25年2月7日)。みなさん、電気がなかったころは、どのような道具でご飯を炊いていたのか? ご飯が冷めないようにどのような工夫をしたのか? 電気がなかったころの「アイロン」はどうして熱くなるのか? などさまざまな疑問をもって勉強しにきてくれました。テレビやインターネットで画像を見るだけではなく、実物に触ることで、その重さや仕組みを実感しながら昔の生活を実感してもらえたと思います。



文化財事務室では、毎年、区内の小学校の依頼を受けて実物を用いた授業に協力させていただいています。資料を利用した見学・体験については文化財事務(03-3502-3348)にお問い合わせください。

千代田区役所旧庁舎から発見された井戸跡

千代田区では、千代田区役所旧庁舎解体工事に先立ち、平成24年9月から10月にかけて発掘調査を実施しました。旧庁舎は、江戸城内北の丸牛ヶ淵に隣接した低地帯に該当し、周辺には牛ヶ淵貝塚や九段坂上貝塚(弥生時代の貝塚遺跡)など縄文・弥生時代の貝塚が分布し、道路を隔てた新庁舎には、旗本屋敷および幕府蔵地である九段南一丁目遺跡が位置しています。

江戸時代の絵図によれば、調査地は江戸時代中期以降幕末まで「土屋信之助」(1,100石)の旗本屋敷が立地し、明治維新後「愛国婦人会」となり、戦後麹町区と神田区が統合され千代田区が誕生すると、昭和22年(1947)に千代田区役所庁舎が新築されました。

今回の発掘調査では、調査敷地内に江戸時代の盛土層が1.5m～1.7mの厚さで確認され、井戸跡、土坑、ピット(柱穴)などが発見されました。このうち井戸跡は、直径85cmの側板が組まれており、側板の外側には黄灰色の粘土質土が詰められていたため、漏水防止や周りからの悪水の流入防止をしたものと考えられます。井戸内には、多量の瓦片や陶磁器片、貝・魚骨などのゴミが捨てられていました。陶磁器の年代からこの井戸は、18世紀後半の江戸後期に埋められたものと推定されます。この井戸跡は、少なくとも3段が組まれていることから、掘り抜き井戸と考えられ、旗本屋敷のほぼ中央に位置することから、屋敷主屋の台所などで生活用水を確保した井戸と考えられます。地質調査によると、標高0.5m以下が砂礫層となり、この層が滞水層と考えられることから、約4m掘り抜いたものと考えられます。

ところで、先の九段南一丁目遺跡の発掘では、上水道5系統のほか掘り抜き井戸が3基発見され、上水道とともに掘り抜き井戸が使われていたことがわかりました。

調査地の近くには清水門や平河門という地名が示すように、もともと当地は川筋に当たり良好な水を得ていたため、掘り井戸で生活を賄っていたと考えられます。事実、江戸時代の記録によれば、番町からこの九段下にかけて上水道樋筋が確認されていないこともそれを裏付けています。『定本 江戸城大奥』によれば、「御用水即ち飲料には御春屋内にある黄金の井戸と呼ぶ井戸の水を(中略)汲みて、日々平河口より御膳所へ運び込むなり。」とあります。江戸城内に引水された玉川上水は、主に庭園の泉水に使われ、将軍をはじめ城内で生活する人々の飲料水は、わざわざ平河門の前にある御春屋(現在の毎日新聞社辺り)まで毎日汲みに来ていたこととなります。旧庁舎で発見された掘り抜き井戸は、江戸時代に清水の湧き出た当地の環境を物語っています。(後藤宏樹)



発見された井戸跡



図 尾張屋板江戸切絵図「小川町絵図」にみる遺跡の位置(○内が遺跡場所、○内が御春屋の場所)

●区内の標柱・説明版・案内板

みなさんは通勤・通学の途中、あるいはさまざまな地域を散策した際に、その土地の史跡や坂、橋などに名称や由来が記された説明板を目にしたことがありますか？こうした標柱や説明板は、その地域の史跡や文化財などの由来・歴史的経緯を説明し、広く知ってもらうという目的で設置しているものです。もちろん、千代田区内にも多くの標柱や説明板が確認できますが、実はその設置者や維持管理者はさまざまで、千代田区が主体となっているものもあれば、個人や任意団体が主体となっているものもあります。さらに、私有地や個人の建物に設置する場合には役所への届け出や手続きは必要ありませんので、現状として区内に設置されている標柱・説明板の総数を把握することは困難なのです。

こうした背景において、千代田区教育委員会(文化財事務室)が設置・維持管理する標柱・説明板・案内板は平成24年7月時点で180基を数えています。ここでは、それらの詳細と現状を紹介します。

標柱は、四角柱型で、区内には78基(麹町地域60・神田地域18)設置しています。この標柱は、主に坂や門・門跡、史跡・旧跡(都指定)などに設置され、現在では、「国立衛生試験所発祥の地」(神田和泉町2-13)、「明神男坂」(外神田二丁目16)、「滝廉太郎宅跡」(一番町6)、「清水門」(九段南一丁目)、「和田倉門跡」(丸の内一丁目2)、「霞が関跡」(霞が関二丁目1)などで見ることができます。しかし、これらの標柱は、その形状から由来などの説明が詳しく掲載で



「南法眼坂」(一番町6)の標柱



「滝廉太郎宅跡」の標柱や説明板、レリーフなど

きないこともあり、目印となる標柱とより詳しい説明文を表示した高札型説明板の両方を設置しているところもあります。

説明板は、区内に92基(麹町地域60・神田地域32)あり、主に橋や橋跡、国・東京都指定の史跡や旧跡、千代田区指定の文化財などに設置しています。「一ツ橋」(一ツ橋二丁目1)、「山王稲荷神社本殿」(永田町二丁目10 日枝神社内 千代田区指定文化財)、「将門塚」(大手町一丁目2 東京都指定文化財)、「神田上水懸樋跡」(神田駿河台二丁目9)などがありますが、現在では、さまざまな立地条件に合わせたり、英文や図を付いたりしているものもあることから、高札型以外の説明板も増えています。



「山王稲荷神社本殿」の高札型説明板

さらに、区内には千代田区教育委員会で監修・設置した「ふるさと文化の散歩道」の案内板があります。これは、区内の自然・史跡・文化施設などをめぐる3つのコース(「北の丸コース」、「外堀コース」、「駿河台コース」)を設定し、そのルートを案内するものです。「ふるさと文化の散歩道」の全体コース案内板は、JR四谷駅・東京メトロ九段下駅・秋葉原公園の3ヶ所に設置しています。また、各コースの途中、計7ヶ所に個別の案内板を設置しています。なお、「ふるさと文化の散歩道」の各コースは、「千代田区文化財マップ」に掲載しています(日比谷図書文化館、または区役所2階で販売)。このほか、千代田区役所と地域の方々と協力し制作した「町名由来板」や「まちの記憶保存プレート」などが区内各所に設置されています。

●標柱・説明板の設置・補修

こうした千代田区教育委員会(文化財事務室)が設置・維持管理する標柱・説明板などは、区の文化財指定などにともなって新設されます。近年では、千代田区指定文化財となった「石牛」(平成22年度指定・平河町一丁目7 平河天満宮内)や、「庚申塔」(平成23年度指定・麹町六丁目4 心法寺内)などが新設されました。

その一方で、設置から現在にいたるまでの風雨や排気ガスなどによる経年劣化や損傷が認められるものも少なくありません。例えば文字盤の文字が薄れて、読みにくくなってしまったものや、金属製の土台が劣化してしまうものなどがあり、文化財事務室では、その度合いの激しいものから順に建替え、補修を行なっています。こうした劣化状況は、文化財事務室の職員が定期的に見回って点検するほか、区民の方からの情報提供によって確認に行く場合もあります。

標柱や説明板は、普段は素通りされがちな存在ですが、実はさまざまな情報を発信するためにそこに佇んでいるのです。なお、千代田区内の標柱・説明板の所在については、『千代田の文化財探訪』(日比谷図書文化館、または区役所2階で販売)に一部掲載しています。

(加藤紫識・高木知己)



千代田区立四番町図書館(四番町1)前の案内板



文字盤が劣化した「帝国議事堂跡」の説明板(霞が関一丁目3) (写真左)と貼り替え補修後の説明板(写真右)

既刊報告書紹介 文化財調査報告書22

『ある官僚一家の近代—佐野家旧蔵資料調査報告書—』

千代田区教育委員会では、平成5年3月に個人から1,300点余の一括資料の寄贈を受けました。これらは、いずれも明治初期以来飯田町六丁目(現富士見二丁目)に居を構えていた佐野家の旧蔵資料で、千代田区ではこの資料群を「佐野家旧蔵資料」と位置付けて整理・調査を行い、旧四番町歴史民俗資料館の平成17年度企画展「千代田「新発見」—新収蔵資料と初公開資料展—」、および日比谷図書文化館の平成23年度文化財特別展『文化都市千代田—江戸の中心から東京の中心へ—』の一部にその成果を発表いたしました。

佐野家は明治初期飯田町にできた琉球藩邸の取次番を務めた家柄ですが、調査の結果、明治期の外務官僚として活躍した宮本小



一や、新潟県・外務省・大蔵省などに出仕した富島永誉といった、明治期の官僚と縁戚関係にあり、両家の資料も本資料群に多く含まれていることが明らか

になりました。そこで本報告書では、「佐野家旧蔵資料」の全貌がわかる目録と、一部の資料を翻刻した史料編を収録し、あわせて解題・口絵を付して一冊(A4版・全149ページ・一部500円)にまとめました。(滝口正哉)

※佐野家旧蔵資料は、調査継続中のため一般公開していません。

●千代田区教育委員会・文化財事務局が編集・刊行する書籍の販売(郵送販売)について

本号の本文中でお知らせした『日比谷図書文化館 常設展示目録』や『ある官僚一家の近代—佐野家旧蔵資料調査報告書—』は、当館1階のLibrary Shop&Café Hibiya(常設展示室側廊下奥)、または当館4階の文化財事務局(月曜～金曜)、千代田区役所2階でも販売しております。なお、郵送による販売は、ご希望の書籍名を明記のうえ、書籍代金と送料を定額小為替にて文化財事務局までお送りください。送料については、重さや大きさによって異なりますので、詳細は文化財事務局にお問い合わせください。

また、旧四番町歴史民俗資料館で編集・発行した書籍も文化財事務局で引き続き販売していますが、品切れとってしまったものもございますのでご了承ください。

問い合わせ: 日比谷図書文化館 文化財事務局(Tel 03-3502-3348・月曜～金曜8:30～17:15)

文化財事務局が同じフロアの奥の部屋(旧・交流支援室)に移転します。

文化財事務局は、平成25年3月21日より、本館4階の奥の部屋に移転することになりました。エレベーターを降りて、右の通路の一番奥(旧・交流支援室)になります。日比谷図書文化館に移転して1年、ようやく文化財事務局の場所を覚えていただいた方々には大変恐縮ですが、来館される方々が、これまで以上に利用しやすい環境となるよう努めていきたいと思います。埋蔵文化財の包蔵地照会や書籍購入、文化財関係のお問い合わせなどの際には、ご面倒おかけしますが、何卒よろしく願いいたします。

なお、電話・FAX番号、窓口対応時間については変更ありません。(本号編集:加藤紫織)



開館時間 月～金 10:00～22:00
土 10:00～19:00
日・祝 10:00～17:00

※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。

休館日 毎月第3月曜日 年末年始
特別整理期間

- 東京メトロ丸の内線・日比谷線・千代田線 霞ヶ関駅 徒歩5分
 - 東京メトロ 千代田線・日比谷線「日比谷駅」徒歩約7分
 - 都営三田線 内幸町駅 徒歩3分
- ※当館に駐車場はございません。

文化財ニュース 第3号

発行日 平成25年3月19日

編集・発行 千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務局
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4
TEL:03-3502-3348 FAX:03-3502-3361
HP:<http://hibiyal.jp/bunkazai/index.html>
e-mail:rekimin@vesta.ocn.ne.jp

印刷 株式会社 商華堂